



第一駐車場前に設置された
会員皆様の奉納による特別花壇

第44回 西日本菊花大会 閉幕

内閣総理大臣賞に

大輪の部 保田直宏氏 (福岡県京都郡)

西日本最大の規模を誇る菊花の祭典、西日本菊花大会(主催||宗像大社菊花会・宗像観光協会、後援||福岡県他)が、先月二十三日を以て盛大に終了した。

この大会は当大社の『昭和の大造営』を奉祝し、昭和四十六年に第一回大会が開催され、今年で四十四回目となる。境内には九州各県、山口の菊愛好家約一〇〇名から、丹精込めて育てられた菊花が出品され、質・量ともに『西日本』の名に相応しい規模を誇る菊の祭典である。

開催にあたっては、宗像大社菊花会を中心に宗像市商工会青年部、(公社)宗像青年会議所、運送会社外多数の皆様方に御奉仕頂き、菊花



内閣総理大臣賞受賞作品



平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

余滴

「唐獅子牡丹」と言えば名作任侠映画だが、そのタイトルは本来調和して取り合わせの良い物の例えの一つである。正しくは、「竹に

虎」「梅に鶯」などと同様に動物より植物を先に挙げるそうである▼我が国では、大陸伝来という事で「唐獅子」と言われているが、モデルはライオンである。「百獣の王」とされる牡丹と大陸で結びつけられた。その造形は、勇猛かつ華やかに表現されている▼画題として古来より好まれ、やがて獅子舞など祭囃子にも採り入れられ親しまれてきた。しかし本質としては、狛犬と同じ様に聖域守護の意味がある▼実は当大社・辺津宮本殿の正面階段の上に彩色を施された「牡丹に唐獅子」の彫刻がある。今は本殿と拝殿の間に渡殿(幣殿)がある為、参拝者の目に入らないのが残念であるが、永年に亘り神域を守り続けてきた存在である▼故高倉健の演じる姿も「唐獅子」を投影し男の理想とされてきた。そして「永遠に不滅の存在となった▼辺津宮本拝殿は十一月末に御修復を完了、来たる十二月八日御遷座の運びである。「牡丹に唐獅子」の彫刻も含め社殿の装いも甞り大神様の神威も弥益々に発現される日も真近である。(佐

神具・装束・授与品
井筒

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567

の搬入・展示が行われた。

十月二十九日、福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター苗木・花き部々長松野孝敏氏を審査長として、八名で審査が行われ、大輪・盆栽・懸崖・特作の四部門それぞれ厳しい出品・審査基準に則り厳正に審査された。本年は大雨や台風が多く、日照時間が短い冷夏となり、菊作りにとって決して良い条件では無いものの、会員皆さ



んの努力により色彩豊かな見事な菊花が境内に出揃い、多くの参拝者を楽しませた。十一月十九日には、清明殿にて表彰式が開催され、賞状・トロフィーが各受賞者等に授与された。また、審査長の松野孝敏氏より審査講評を賜ると、出席者等は次年度への励みにと熱心に聞き入っていた。

期間中の境内では、「菊みくじ」や勅使館を特別開放した「茶房」、観光協会による「いっぴく茶屋」を実施、さらには観光ボランティアの皆様による境内案内なども行われた。また、恒例のキャラクター菊人形や、「きくまつり・七五三・宗像大社」の菊文字を中心に据えた会員皆様

の奉納による特別花壇なども加わり、七五三詣の参拝者を中心に記念写真撮影場所として賑わいをみせた。

各賞、受賞者は下記の通り(敬称略)

内閣総理大臣賞	保田直宏
農林水産大臣賞	福嶋廣之
文部科学大臣賞	和田太義
総務大臣賞	社家間サツキ
法務大臣賞	初井弘己
外務大臣賞	城本勝行
財務大臣賞	安武善隆
厚生労働大臣賞	船越順一
経済産業大臣賞	古原正則
国土交通大臣賞	時田義光
環境大臣賞	白水晴治
防衛大臣賞	中川泰祐
内閣官房長官賞	吉田睦雄
衆議院議員宮内秀樹賞	豊原勇
宗像大社宮司賞	御田良知

※以下、受賞者につきましては紙面の都合上割愛させていただきます。

第2回 長野県松本市特産の信州りんごを奉納

観菊者、七五三祈願者等で賑わう十一月三日、長野県松本市特産の信州りんごを奉納する式典が行われ、終了後、松本市のマスコットキャラクター「アルプちゃん」と巫女等が約四〇〇個のりんごを参拝者等に手渡した。

二千円を超えるアルプスに囲まれた「山のまち」松本市と、「海のまち」宗像市は、

福岡、松本間の直行便が

運航しており、さらに交流を深めようと、松本農業開発センターやJ-A全農長野福岡販売所などが賛同して昨年より始まり、今年も松本市特産の信州りんごが届けられた。



午後二時、仮本殿で行われた式典では、まず、りんごや参列者が祓い清められた後、奉納者から巫女に手渡され、さらに神職が三方に盛られたりんごを神前にお供えした。引き続き、巫女や関係者等が松本市の観光パンフレットとりんごのセットを参拝者等に配ると、境内中の方が殺到し、盛況を博していた。

秋の神賑行事

神威は敬心によって増す

第39回 清香吟社奉納吟詠大会

清香吟社宝山会による秋季奉納吟詠大会が宗家・宗嗣益中翔山氏をはじめ、県内外より会員約五十名が参集し、十一月三日清明殿にて開催された。

大会に先立ち、午前十一時

より仮本殿にて正式参拝、会員一同による「吟道」の合吟が奉納。その後、清明殿にて式典が開催され、永年斯道の興隆に寄与された、長野柗月氏・野田海山氏・阿部豊吉氏に感謝状と記念品が贈呈された。

第6回 博陽吟道会秋季奉納吟詠大会

十一月六日、博陽吟道会奉納による吟詠大会(協賛・吟道清吟会)が開催された。

開会に先立ち午前十時より、本殿にて正式参拝、博陽吟道会・吟道清吟会両会員による

合吟が奉納された。引き続き、清明殿にて開会式が行われ、博陽吟道会の灘谷懿月氏・芳賀芳月氏、吟道清吟会の大野詠山氏の表彰が行われ、賞状と記念品が送られた。

平成26年度 宗像大社秋季奉納囲碁大会

十一月十六日(日)宗像本因坊戦(五・六段者)、宗像大社奉納囲碁大会(初段〜五段)が宗像・福津両市内から一五七名が参集し、斎館・清明殿で開催された。

囲碁大会は一四四名が参加

し初段〜五段を六人一組に別け、各組ごとに優勝者を決定した。実力ナンバーワンを決める本因坊戦は、高段者十三名によるトーナメント形式で行い、熱戦の末、佐土原勲が優勝を果たした。



第22回
宗像大社氏子会研修旅行
三重・京都方面へ
神宮・仁和寺を参拝

第二十二回宗像大社氏子会研修旅行が置鮎会長をはじめ三十九名参加のもと、十月二十七日より三日間の行程で開催され、三重・京都方面へと向かった。

初日夕刻、フェリーにて出発した一行は、翌早朝、大阪に到着し、バスで宗像大神の御親神、天照大神をお祀りする伊勢



内宮・宇治橋前

神宮へと向かい、昨年遷宮された新しい内宮・外宮を御垣内参拝した。

特に外宮では、神宮で毎日執り行なわれている日別朝夕大御饌祭が行われており、参進する神職の姿を拝し神宮祭祀の一端に触れる事ができ、一同感動した様子で伊勢を後にした。その後、夫婦岩で有名な二見興玉神社を参拝し、四日市・湯ノ山温泉へ宿泊。温泉につかり一日の疲れを癒し、懇親会にて和やかに親睦を深めた。

最終日は京都へ向かい、当大社の神宮寺でもある鎮国寺の名誉住職・立部祐道氏が門跡を勤められている仁和寺を参拝し、門跡自らご案内いただき、世界遺産となっている境内を拝観し、その後、平安神宮を参拝し、伊丹空港より帰路に着いた。

今回の研修旅行は、神宮をはじめ社寺に参拝し、崇敬の念の大切さを再認識できた有意義なものとなった。



仁和寺に頂上案内にご案内された立部門跡

古式祭の御案内

八百年の伝統をもつ、宗像地方の特殊神事「古式祭」が左記日程で執り行われます。振るって御参列下さい。

- ◆日時 12月14日(日)
- ◆祭典 午前6時
- ◆祭場 宗像大社本殿
- ◆御座 午前6時30分〜一番座 (二番座は50名ずつ、五番座まで)
- ◆会場 宗像大社清明殿
- ◆御座料 1人：1,000円

※御座券は当日午前6時販売致します。(例年午前5時30分位から多くの方が並び始めます。)



除夜祭・大祓神事の御案内

年の瀬を迎え、皆様には御多忙の御事と拝察申し上げます。今年一年を締め括る「大祓神事」「除夜祭」が近付いて参りました。

この大祓神事は「年越の大祓」と称し、夏(7月31日)に行われた「夏越の大祓」以後半年間の「罪」・「穢れ」を祓い清め、清々しい心身で新年を迎えていただくための神事でございます。

大祓神事に引き続き行われる除夜祭は、この一年を締めくくる祭典です。この祭典が終ると、しばしの静寂を経て元旦を迎えます。

- ◆日時 12月31日(水) 午後3時
- ◆場所 神門前

尚、遠方または参列出来ない方は、大祓神事当日までに「人形」(男Ⅱ白、女Ⅱ赤)に息を吹きかけ、御家族の名前・住所・年齢を、「車型」にはナンバーを御記入の上、当大社まで御返送ください。



平成27年 厄年一覽表

昭和50年	昭和49年	昭和48年	昭和47年	昭和45年	昭和38年	昭和36年	昭和31年	昭和30年	昭和29年	昭和27年	昭和20年	昭和18年	昭和11年	昭和9年	昭和2年	大正14年	生まれ年	厄	満年齢	生まれ年	厄	満年齢																																																																																
前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	暗剣殺	八方塞	40	41	42	43	45	52	54	59	60	61	63	70	72	79	81	88	90	平成20年	平成18年	平成11年	平成10年	平成9年	平成8年	平成4年	平成3年	平成2年	昭和63年	昭和59年	昭和58年	昭和57年	昭和56年	昭和55年	昭和54年	昭和53年	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	前厄(女)	大厄(女)	後厄(女)	前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)	八方塞	前厄(女)	大厄(女)	後厄(女)	暗剣殺	前厄(女)	大厄(女)	後厄(女)	7	9	16	17	18	19	23	24	25	27	31	32	33	34	35	36	37	7	9	16	17	18	19	23	24	25	27	31	32	33	34	35	36	37

厄年

厄年とは人生の節目であるとともに、一生のうちで災い・災難といった「厄」にあうおそれが多いため、忌み慎まねばならないという年です。特に男性の四十二歳、女性の三十三歳は「大厄」とされ、その前後の年も「前厄・後厄」といって、最も慎み忌むべき年とされています。

我々日本人の永年の生活習慣から発生した、我が国独自の慣習ではありますが、厄年を迎えると我々の先祖は神社に足を運び、お祓いをうけ避けてきました。医学的にみても、男性の四十代は生活習慣病、女性の三十代は乳がん・子宮がんの発生率が高くなる年代で厄年とも符合します。神社でお祓いをうけ、この一年を清々しい気持ちでお過ごしください。

八方塞

陰陽道での方向に向かって事を成しても、不吉の結果を生ずる年齢とされ、転居、結婚、新しく事をはじめ方は要注意と言われています。

暗剣殺

「九星術」でその年の五黄土星と相對する方位で、最も慎まねばならないとされる大凶の年廻りと言われています。

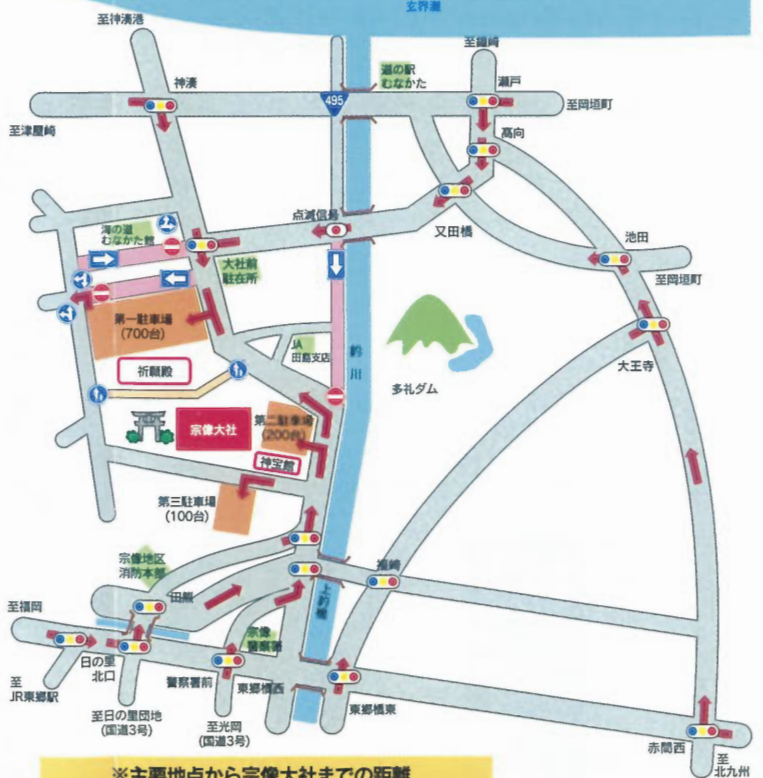
交通規制のお知らせ

宗像大社 初詣

- 期間**
- 平成26年12月31日(水)
午後10時から
平成27年1月1日(木)
午後8時まで
 - 平成27年1月2日(金)～1月4日(日)
午前9時から午後7時まで
- ※交通状況により、規制時間を変更することがあります。

凡例

	宗像大社順路
	一方通行
	歩行者用道路
	車両進入禁止
	交通信号機
	駐車場



- ※主要地点から宗像大社までの距離
- ★東郷橋交差点から 4.1km
 - ★神湊交差点から 2.0km
 - ★日の里北口交差点から 4.1km
 - ★瀬戸交差点から 3.3km
- 公共交通機関をご利用ください

(続)

決の寄物

295

いしただし



表面の一部は剥落もあるが「為慰靈魂、清国軍艦定遠三十冊半之彈丸伊東祐亨」と読める。

明治二十年代のアジア最大の巨艦、定遠と鎮遠で、ドイツで建艦、七、四三〇t。当時の超戦艦で、日本にも示威航海し、海軍人や国民もその巨大さに震えあがらせた。(定遠については会誌六三九号に記載)この巨艦の砲弾が門柱となって、どんと据えられて見るものを圧倒する。

黄海海戦で敗れ山東半島威海衛に逃げ込んだ北洋水師(艦隊)は日本海軍の水雷艇の波状攻撃を受け大破沈没。威海衛を占領した海軍によって戦利品となったものである。定遠は解体され、太

前回は空母飛龍の最後を記したが、昭和十七年六月五日のミッドウェー海戦で主力空母四隻が沈没、戦闘機、優秀なパイロットを失った。そして、緒戦の勝利から一転して敗北へと進んでいく。ミッドウェー海戦は「運命の五分間」といわれ、攻撃機の爆弾から魚雷の換装に手間取ったことと共に、情報の把握、判断等のミスも重なり

大敗北を喫したものである。空母加賀の碑は涼月(大和特攻)千歳(水上機母艦)のグループにあり「海の防人之碑」のそばにある。

加賀はワシントン条約により未成戦艦から改造され、空母としたもので、昭和十年に改装が完成、飛行甲板を一段に変え、搭載機数を増し、速力も二十八kt以上、対空兵装も強化された。戦歴

はハワイ海戦に参加、その艦上機七十一機は米海軍の太平洋艦隊主力および諸施設を猛爆撃した。その後ひきつづきラバウル、カ

ビエン、ポート・ダーウィン、チラチャプの作戦に参加、六月五日のミッドウェー海戦で、米空母・エンタープライズ機の爆弾三発を受け大火災となり沈没した。なお東山海軍墓地に記念碑はないが、ミッドウェーで沈没した空母には蒼龍がある。

米急降下爆撃機の命中弾を三発受け、甲板上の飛行機に誘爆して大火災となり沈没。艦長柳本柳作大佐は艦と共に運命をともししている。新造時の要目は排水量一五、九〇〇t、全長二二七、五m速力三十四、五kt、搭載機七十一機、乗員一、一〇一名。(日本軍艦一〇〇選・野沢正)個人墓の入口に一对の砲弾を使った門柱が立っている。赤くさびて

宰府の定遠館の門扉となったり、各地に分散されて展示されていた。門柱となつて一二〇年、日清戦争の証人となつて建ちつづけている。

この砲弾を見ても、色々な事が去来する。なお、海軍墓地の拝殿前にも、清国軍艦の六門の砲身が並んでいる。

デアゴスティーニ・ジャパンの戦争映画DVDコレクション第二〇号は「天皇・皇后と日清戦争」明治天皇に嵐寛寿郎・昭憲皇后が高倉みゆき・新東宝一九五八年製作、定遠もでてくる。映画はよく出来ている。



定遠の砲弾の門柱

はハワイ海戦に参加、その艦上機七十一機は米海軍の太平洋艦隊主力および諸施設を猛爆撃した。その後ひきつづきラバウル、カ

柱が立っている。赤くさびて

解体され、太



清国の砲身

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日×切



宗像市 多禮 早川 祥三
 神奈備の森にかがよう巫女の袖おもいはるけし沖津島風
 巫女の袖が魅力的。調べが切れた感じなので二句以下
 をへ森に舞う巫女その白き袖に思ほゆ〜としてみた。

福津市 中央 池浦千鶴子
 帽子付けそのままラーメンすりをり白髪かくして昼餉をすます
 髪に自信のない評者も共感できる歌。上の句と下の句
 の意味がほとんど同じなので、下の句では展開を。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範
 御嶽の噴火当日飛驒の旅外人客と慌て戸惑う
 御嶽山の噴火当日に近くに居た作者。戸惑って、
 へニュースに見入る〜など行動を入れては。

宗像市 宮田 山本 静子
 杵岐・対島雲に名をつけ仰ぐ空プロペラ機にて訪いしが頭ち来
 雲に杵岐・津島と名付けた作者が個性的。初句へ〜と
 三句へ空仰ぐ〜結句へ訪いし日おもい〜と三句切れに。

宗像市 日の里 石松 弘次
 療養より帰りし妻と寝間分ち思おもよらぬ独りの自在
 夫人の療養を機会に独立した寝室を持ち自在さに驚い
 た作者か。結句へ自在をおぼゆ〜等と。

北九州市 八幡西区 豊田 光子
 眠りに就き補聴器はずす一瞬をわれに音なき安息がある
 補聴器をはずした静寂を安息と捉えた感覚的な良い歌。初句は(眠らんと)。

福津市 若木台 山崎 公俊
 もし木々が歩み出せばと空想し空想しきれぬ大樟の森
 発想が楽しい。作者にも空想できない大樟が歩きまわ
 る森はどんな風景なのだろう。

北九州市 戸畑区 田中ハツセ
 居寝し吾に月下美人が開き始む香りただよひ手のひら程に
 花の好きな作者の喜びの歌。初句は言葉が忙しいので
 (わが寝間に)。三句始むは(初む)が一般的。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦
 バラの花に顔をうずめている少女刺のことなど忘れていたる
 絵のような光景。語順を変え、(棘のこと)思いもせずや
 わが少女咲く庭の薔薇に顔をうずめる。

宗像市 田久 巻 桔梗
 わが裡に心配性の妣棲り会ひたくはなしされど会ひたし
 上の句が読者を引き込むが下の句では物足りない。読
 者は妣が棲む影響を、具体で知りたい。

宗像市 池田 森 龍子
 物弾む音に目覚めり三日前バケツ使ひしその後を知らず
 音の実態は何? ミステリーのように。二句は助動詞(へり)
 は下二段活用には付かないので(音に覚めたり)に。

北九州市 門司区 北野カズミ
 孫五人節目ふしめを祝ひゆく大きよろこびわれをも生かす
 祖母としての喜びが作者の生きがいと、素直で好感が持てる歌。初句には(の)と助詞を。

宗像市 日の里 大和美由紀
 夕日差しわが影写す砂浜を夫の後追ひばくばく歩く
 ロマンティックな砂浜のイメージ。作者と夫の影にもう一步踏み込んだ詠み方も試みて。

◆選者詠
 湯のなかで身動きすれば浮く袖子のゆれて近寄りはなるるいくつ
 ゆびの腹に皺の寄ることわすれるき風呂で飽かずにあそびし日々も

俳句作品集

第六一三回
宗像市 多禮 早川 祥三
 神奈備の杜にかがよう巫女の紅
北九州市 八幡西区 曾川恵美子
 水引きのそこやかしこに殖えにけり
宗像市 日の里 石松 弘次
 秋のきて親友の戦死の供養する

12月祭事暦

1・15日 月次祭 午前10時 高宮祭、 第二宮・第三宮祭 引き続き 宗像護国神社 月命日祭(1日)	9日 奉幣祭 午前10時〜
午前11時 総社祭 浦安舞奉奏(1日) 豊栄舞奉奏(15日)	14日 午前6時〜 古式祭 午前6時30分〜 御座 午前10時〜 鎮火祭
8日 遷座祭 午後7時20分〜	19日 松尾神社祭 午前11時〜
	23日 天長祭 午前11時〜
	31日 年越大祝式 午後3時〜 引き続き 除夜祭

編集後記

写真は本誌の余滴で紹介された「牡丹に唐獅子」の彫刻です▼四十二年振りの遷座祭、職員一丸となり準備を進めております。新たに美しさを取り戻した本・拝殿は十二月九日、午後よりお参り頂けます。多くの御参拝お待ち致しております。どうぞ良いお年をお迎え下さい。(鈴)



発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 千八二一三五〇五
福岡県宗像市田島三三二
電話 (〇九四〇)六二二二二二(代)
発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行
定価1年送料共 1,000円